

## 令和4年度第1回江別市スポーツ推進審議会開催結果

### 1. 開催日時

令和4年8月17日（水）午後2時30分～午後3時30分  
江別市教育庁舎大会議室

### 2. 出席者

#### ・スポーツ推進審議会委員：8名

金内晴夫会長、古川孝行委員、小林照美委員、信定学委員、  
柴田宏樹委員、奥村翔委員、小川泰雅委員、五十嵐拓也委員  
（欠席：花井篤子副会長、竹内由紀子委員、石崎朋子委員）

#### ・教育委員会事務局：6名

黒川教育長、伊藤教育部長、佐藤教育部次長、堀井スポーツ課長、  
井上スポーツ係長、今井スポーツ課主査

### 3. 開催結果

#### （1）委嘱状交付（机上配付）

所属団体の人事異動等に伴い、新規の委員に委嘱状を机上配付。

#### （2）開 会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

#### （3）あいさつ

金内会長・教育長からあいさつ

#### （4）委員・職員自己紹介

#### （5）報告事項

報告事項（1）令和3年度スポーツ関係事業実施報告について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

#### ○事務局（スポーツ係長）：

はじめに、教育委員会が行った事業についてご報告する。

まず、学校体育施設開放事業であるが、社会人体育団体学校開放事業は、学校運営に

支障のない範囲で、体育館及びグラウンドを市民のスポーツ団体の活動場所として提供する事業で、令和3年度は、25小中学校を129団体に開放し、利用者数は延べ7万5,503人であった。

次の体育施設開放事業（学校体育館土曜開放）は、10の小学校の体育館及びグラウンドについて、土曜日の午前を地域の児童生徒のスポーツ活動場所として提供するもので、利用者数は延べ947人となっている。

両事業とも、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）拡大防止対策として、昨年度に引き続き、利用制限や開放中止の対応を行ったことで、利用者数が減少している。

また、体育施設開放事業（学校プール開放）は、夏休み期間中、15校の小学校プールを開放し、子ども達に利用してもらったが、令和2年度に引き続き、中止となった。なお、利用者数などはまだ集計していないが、今年度はプール開放を実施している。

次に、スポーツ普及奨励事業の、青少年スポーツ賞顕彰であるが、スポーツ賞は、高校生以下を対象にして、全国大会で3位以上を基準としており、1個人を表彰している。スポーツ奨励賞は高校生以下で全道大会1位を基準としており、12個人、13団体を表彰している。

教育委員会賞は、小中学生で全道大会2位又は3位を基準としており、9個人、6団体を表彰した。

次のスポーツ大会出場奨励金交付は、予選を経て全道大会規模以上の大会に出場する市民に対し、負担の軽減を図る目的で奨励金を支給するもので、国際大会は、該当なし、全国大会では、個人16人と10団体に、全道大会では、個人8人と1団体に、それぞれ奨励金を支給した。こちらも感染症の影響により、全道・全国大会が相次いで中止となったため、表彰及び奨励金交付の対象者が減少している。

次に、スポーツ振興に関する事業であるが、屋外体育施設管理運営事業は、はやぶさ運動広場内の少年野球場、テニスコートなどと、第二中学校に特設するスケートリンクの管理運営を江別市スポーツ振興財団に委託したものである。

スポーツ大会等振興補助事業は、江別市スポーツ振興財団が実施するスポーツ大会や健康体力づくり指導相談などの事業に係る補助金で、3,946万3千円を交付している。

次に、体育団体補助金であるが、現在の江別市スポーツ協会である江別市体育協会と江別市スポーツ少年団が実施する事業に対する補助金となっている。

次に、地域スポーツ活動活性化促進事業であるが、学校レクリエーションや自治会な

どにおいて、スポーツ推進委員の指導の下、軽スポーツを行い、この普及を目的とする事業で、1件、15名を対象に実施した。

資料2ページをご覧ください。

3市交流スポーツ大会開催事業であるが、江別市、札幌市厚別区、北広島市とのスポーツ交流事業として実施している事業だが、こちらも、感染症の影響で中止となった。

次に、スポーツ合宿誘致推進事業は、合宿誘致にかかる情報収集・PR活動を行うとともに、合宿に訪れる道外の団体に対し、空港から宿泊地・練習会場への送迎サービスの提供、道立野幌総合運動公園などの会場使用料の補助、江別市特産品の提供といった支援を行ったものである。

令和3年度の実績としては、バスケットボールとドッジボールの競技団体が訪れ、延べ3団体、82名に対し各種支援を行った。

感染症の影響もあり、利用件数自体は低くなっているが、それぞれ地元チームとの交流試合などを実施してもらい、当市にとっても有意義なものとなっている。

次に、はやぶさ運動広場移転事業だが、はやぶさ運動広場から少年野球場をえみくる敷地内に移転するための事務費及び球場造成工事費となっている。

なお、野球場は今年度4月23日にオープニングセレモニーを開催し、供用を開始している。

次に、スポーツ施設改修整備事業の体育施設整備更新事業であるが、4つの体育館、3つの屋外体育施設に係る修繕工事費と備品購入費となっている。

令和3年度は、市民体育館のボイラー室修繕や1階出入口エアカーテンの修理、大麻体育館の自動火災報知の更新などを行った。

次の大麻体育館改修整備事業は、第一体育室の床の亀裂、歪みを直すため、フローリングにサンダー掛けを行ったものである。

最後に、体育施設の指定管理事業だが、市民体育館など屋内4体育施設は一般財団法人江別市スポーツ振興財団が、あけぼのパークゴルフ場及び森林キャンプ場についてはエコ・グリーン事業協同組合が、それぞれ指定管理者として管理運営を行ったもので、指定管理料は合わせて2億1,439万2千円となっている。

次の3ページから7ページにかけては、指定管理者として屋内体育施設の管理運営を行っている一般財団法人江別市スポーツ振興財団が行った事業を掲載しており、指定管

理に係る事業や、スポーツ大会等振興補助金に係る事業、自主事業の報告で、詳細については割愛するが、事業内容は記載のとおりであり、各種スポーツ教室やスポーツ大会を開催したほか、健康体力づくり指導相談事業、スポーツ指導者養成事業、体育施設管理運営事業を実施している。

(質疑等 → なし)

報告事項(2) 令和3年度スポーツ施設利用状況について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○事務局：スポーツ係長

資料8ページをご覧ください。

まず、令和3年度は2回の緊急事態宣言を含む、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る措置が国から指示されたこともあり、社会体育施設の休館や学校の開放中止、あるいは利用者を市民に限定する制限をおこなったため、利用者が減少している。

なお、屋内施設のうち、青年センターは、コロナワクチンの集団接種に体育館を提供しており、その利用者数を計上しているため増加している。

令和3年度の利用者数だが、屋内施設では、4体育館合計で、28万4,589人と前年と比較して増加しており、青年センターでは約4万6千人が増えたことになっている。これは6月から年度末まで、青年センターの体育館をコロナワクチンの集団接種会場として提供したためであり、その利用者数を計上したことによるもので、本来の体育施設としての用途ではないことにご留意されたい。

屋外施設は、都市公園内の少年野球場やテニスコートなどの利用者数だが、合わせて3万2,041人と前年と比べ減少している。

森林キャンプ場も休場が多く、利用者数は5,110人とどまった。

9ページに移り、あけぼのパークゴルフ場だが、こちらも利用者数は2万5,180人と、前年と比較して減少している。

このほか、特設スケートリンクと学校体育施設開放事業の実績は記載のとおりであった。

最後に、当市のスポーツ施設利用者の総合計は、42万5,394人となり、前年度から約1.3%の減となった

(質疑等 → なし)

報告事項(3) 令和3年度江別市スポーツ推進計画推進状況について

- ・スポーツ課主査から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ課主査)：

資料の10ページ、11ページをご覧いただきたい。

第6期江別市スポーツ推進計画は、第6次江別市総合計画の個別計画と位置づけ、計画期間を令和元年度から令和5年度までの5年間とし、誰もが健康で心豊かな生活を送ることができる生涯スポーツの実現を目指すために策定している。

本計画の推進には、各施策の実施状況や達成状況、効果・課題について、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)の考え方に基づいて、点検・評価を行い計画に反映させていくこととしており、令和元年度における「成果指標」の結果と今後の推進の方向性について、ご報告する。報告する内容については、太枠で囲まれた部分となる。

「基本目標Ⅰ：生涯スポーツの推進」だが、令和3年度は、生涯各期におけるスポーツ活動の機会提供と充実として、各種スポーツ教室を開催し、各年齢層別のメニューを提供した。

各領域におけるスポーツ活動の充実と関係機関・団体との連携として、学校開放事業など、スポーツ活動機会の提供を行った。

スポーツ教室の受講者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、前年と比較して増加しており、回復傾向が見られる。

学校開放事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により利用人数は減少しているが、各団体の登録人数は横ばいとなっており、各団体の活動は維持されている。

週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合は現状値に比べて上昇しており、年代別に見ると高年齢層の方の割合が高くなっている。

今後の方向性についてだが、スポーツ活動に親しむ市民割合の上昇を目指し、より多くの市民がスポーツ活動に親しむことができるよう、市民ニーズを的確に把握し、関係機関と連携して魅力ある事業の提供に努めていく。

資料の11ページをご覧いただきたい。

「基本目標Ⅱ：地域スポーツ活動の推進」であるが、令和3年度は、地域スポーツ活動の活性化のためスポーツ協会やスポーツ少年団の活動に対する支援のほか、軽スポーツの指導・普及を行う軽スポーツの出前事業を実施し、気軽にスポーツに親しめる機会を提供した。

各スポーツ団体やスポーツ少年団は少子高齢化の影響がある中、会員数は一定の人数を保っており、それぞれの団体は感染症対策に配慮しつつ活発に活動し、全道大会や全国大会でも多くの選手が活躍している。

また、スポーツ合宿では、新型コロナウイルス感染症の影響により、アスリートとの交流が制限される状況は続いており、引き続き、オンライン交流など、コロナ禍における交流や体験の場の確保を継続していく。

スポーツ機会が充足していると思う市民割合は69.9%と、前年度を上回る結果となった。高年層の年代で充足していると感じている割合が増加している。

今後の方向性だが、各団体の活性化のため、スポーツ協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等に対し、指導者育成等の支援や情報提供等の取組を継続して行い、スポーツによる「健康都市えべつ」の実現を図っていく。

次に「基本目標Ⅲ：スポーツ環境の整備・充実」であるが、令和3年度は、大麻体育館体育室のサンダー掛けや市民体育館ボイラーの修繕など、施設の修繕の環境整備に努めた。

また、新規施設として、はやぶさ運動広場の少年野球場をえみくる敷地内に移転、建築工事を行った。

市内の屋内体育施設は、建築から30年以上経過したものが多いことから、老朽化対策として、安全に配慮した改修整備を進めており、その結果、スポーツ施設整備の満足度は65.9%となり、現状値を上回っている。

今後の方向性だが、令和4年度も市内体育施設の改修整備を行い、安全で快適に利用できるスポーツ環境づくりを進めるとともに、指定管理者と連携して利用しやすい施設運営と適切な管理を行っていく。

(質疑等 → なし)

報告事項(4) 令和4年度スポーツ関係事業計画について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ係長)：

資料の12ページをご覧いただきたい。

まず、今年度において、教育委員会が行う事業である。

ここでは前年度から内容変更のあった事業を主にご説明させていただく。

表の中段やや下にある、あけぼのパークゴルフ場改修整備事業だが、昨年度の当審議会において、予算の説明として報告ししている、9ホールの増設工事のための経費となっており、今年中の完成を目指して、現在工事中である。

その次の行、高校総体北海道大会開催事業だが、報告事項（5）で説明させていただく。

ひとつ飛んで、スポーツ施設改修整備事業のうち、市民体育館改修整備事業は、体育室の屋上防水の改修工事を行うもので、大麻体育館改修整備事業は、第一体育室の照明のLED化を行うものである。

13ページから16ページにかけては、令和4年度も指定管理者として屋内体育施設の管理運営を行う一般財団法人江別市スポーツ振興財団が実施を予定している事業を掲載しており、詳細については割愛するが、指定管理事業、受託事業、補助事業について、それぞれ記載しているので後ほど確認いただきたい。

（質疑等 → なし）

報告事項（5）令和5年度全国高等学校総合体育大会の実施について

- ・スポーツ課長から、資料に基づき報告した。

○事務局（スポーツ課長）：

令和5年度全国高等学校総合体育大会の実施について、報告する。

令和5年7月から8月にかけて、北海道で昭和62年以来、36年ぶりとなる全国高等学校総合体育大会が開催される。

北海道では、19の市と町で28競技32種目が開催されるが、このうち江別市では、ホッケーと水泳の飛込・競泳が開催される予定である。

各競技の日程や会場は、表に記載のとおりで、参加予想人数は、過去の実績から選手や監督・コーチ、観客あわせて約2万4千人と見込んでいる。

なお、水泳の飛込についてだが、設備の都合上、野幌運動公園での開催が難しい状況であり、道内で飛込競技が出来る施設はないことから、現在、施設を所有管理する北海道では、他県での開催も並行して検討している状態である。

大会開催に向けた令和4年度の活動としては、開催準備と大会運営に万全に期すため、江別市長を会長とした江別市実行委員会を5月18日に設立、第1回の総会を開催した。

また、実行委員会では、今年の高校総体の開催地である徳島県と高知県の大会視察のほか、競技ポスター図案の募集や、協賛募集、その他競技開催に必要な準備業務を行っていく予定である。

(質疑等 → なし)

報告事項(6) あけぼのパークゴルフ場利用料金の見直しについて

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ係長)：

資料の18ページをご覧ください。

初めに、増設に至る経過だが、当パークゴルフ場は3コース27ホールで運営しているが、4コース36ホールで競技が行われるのが一般的であり、競技団体からコースの増設について要望を受けていたところである。

また、市内の民間パークゴルフ場が相次いで閉鎖したことにより、競技者の活動の場が減少している。

以上のことから、1コース9ホールの増設を行うこととした。

下に年間の経過を掲載しているなので、確認願いたい。

次に、市の使用料・手数料の考え方についてであるが、市の使用料・手数料については、見直しに関する基本方針に基づき、受益と負担の公平性を確保しながら、公共施設の運営改善と行政サービスの改善を目指すため、見直し作業を実施している。

今回の9ホール増設に伴い、当パークゴルフ場の使用料金についても、見直しを行う予定である。

見直しのスケジュールについては、次のページに記載している表のように予定しているので、確認願いたい。



(質疑等)

○小林委員：

利用者のほとんどは高齢者と思うが、高齢者を基準として料金を考えるのか、または一般を基準として料金を考えるのか。

○事務局（スポーツ係長）：

料金検討の際は、一般の料金を基準として、その2分の1が高齢者の料金、というように算出する。

○小林委員：

高齢者にとって料金が上がるということは、なかなか難しいことではないか。

○事務局（スポーツ係長）

今回の場合は、増設に伴う見直しであり、例え料金が上がったとしても増設によるものであり、理解がえられると考えている。

○金内会長：

市民と市外の利用者の料金は同じか。同じで施設が充実するとしたら近くの市から多くの利用者が来ると考えられる。料金に差をつける方法はないか。

○事務局（スポーツ係長）

市内と市外で料金の区別はしていない。利用にあたって団体利用という方法があり、それは市民が半数以上いなくては登録できなくなっている。

市民とそれ以外の区別については、今後検討していく。

(説明事項)

説明事項（1）第7期江別市スポーツ推進計画の策定について

- ・スポーツ課主査から、資料に基づき説明した。

○事務局（スポーツ課主査）：

資料20ページをご覧ください。

現在の「第6期江別市スポーツ推進計画」は令和5年度で終了するため、その次の計画として、「第7期江別市スポーツ推進計画」を策定する必要があり、今年度から策定作業を進める。

初めに策定の根拠だが、江別市スポーツ振興計画は、スポーツ基本法第10条第1項に基づき、国のスポーツ基本計画を参酌して、市町村がその実情に即したスポーツの推進に関する施策について定める計画となっている。

次に計画の位置付けだが、上位計画である「江別市総合計画」をはじめ、江別市の各種計画や指針との整合性を図りながら、また、国や道の動向も見極めるとともに、まちづくり市民アンケートや市民の要望・意見を参考とし、江別市の地域性を踏まえた計画として策定する。

計画の期間は、2024年度（令和6年度）から2028年度（令和10年度）までの5年間の計画となる。

次に策定方法だが、当審議会による協議を中心に作業を行う。

その他として、まちづくり市民アンケートの活用、庁内外関係各所への調査票送付、市民意見の反映として2023年度（令和5年度）にパブリックコメントを実施したいと考えている。

計画の策定スケジュールについてだが、次のページ、21ページの「第7期 江別市スポーツ推進計画（2024～2028）策定スケジュール（案）」をご覧ください。

この表は、横軸が年度と月で、縦軸が、策定に係る協議・検討会議等の項目となっており、令和4年度と令和5年度の2ケ年で作成するスケジュールとなっている。

まず、一番上の行、計画策定の主な動きとして、9月に策定方針を決定、10月中旬から来年の1月までに、現計画である第6期の評価を実施し、来年の2月には、計画策定について、教育委員会からスポーツ推進審議会に諮問されることとなる。

その後、来年の4月～6月までに現状の分析・課題の整理、推進目標、推進項目を検討し、計画素案の協議を行いながら、7月には、計画素案審議原案を決定する予定である。

そして、9月～10月にかけて、パブリックコメントを実施し、募集結果・意見を整理したものを11月のスポーツ推進審議会にフィードバックして計画案を協議し、12月には、教育委員会へ答申いただき、令和6年2月頃に計画を決定する予定である。

諮問から答申までは、約10か月をかけて当審議会にてご審議いただくこととなり、審議会開催回数としては3回程度の開催と考えている。

次のページをお開き願いたい。国・北海道・江別市の体系比較について記載している。  
左から、国・北海道・江別市の策定状況を記載した。

一番左の列、国のスポーツ基本計画は、今年の3月に新しく策定された計画であり、江別市の計画は、国のスポーツ基本計画を参酌しつつ、江別市の実情に即した計画にしたいと考えている。

その他の資料として、現行の計画である第6期江別市スポーツ推進計画（別冊）、江別市内スポーツ関連施設マップを配付しているので、今後の計画策定に向けて、後ほどご覧いただきたい。

（質疑等 → なし）

（7）その他

○事務局（スポーツ係長）：

今年度の江別市スポーツ審議会の開催は全部で3回の予定で、次回の審議会の開催は、11月頃を予定している。時期が来たら改めてお知らせする。

○議長（金内会長）：

以上をもって、令和4年度第1回江別市スポーツ推進審議会を閉会する。

（8）閉 会（午後3時30分終了）